



一般社団法人 日本物流団体連合会
Japan Association for Logistics and Transport

〒100-0013
東京都千代田区霞が関3丁目3番3号
全日通霞が関ビル5階
TEL:03-3593-0139
FAX:03-3593-0138
URL:www.butstryu.or.jp

News Release

令和3年4月12日

第18回「物流連懇談会」を開催

(一社)日本物流団体連合会(渡邊健二会長)は、4月9日(金)、東京都千代田区の学士会館において、第18回「物流連懇談会」を開催した。この物流連懇談会は、物流業界の幅広い会員の参加を得て、会員への情報提供、会員相互の情報交換・交流のために行われている。新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで対面にて開催する運びとなった。今回は、新日本海フェリー株式会社 代表取締役社長であり、東京九州フェリー株式会社 代表取締役の入谷泰生氏から「長距離フェリーは現代の北前船か」と題する講演が行われ、会員企業の代表者や幹部など65名の参加があった。

冒頭、渡邊物流連会長の挨拶ののち、講演会が始まった。

講演では、演題の長距離フェリーのルーツは北前船であるとの入谷社長の考え方に基づき、古代から近世にいたる日本海の海上運送における北前船の発達と明治期から現代にいたる長距離フェリーの役割の変化について豊富なデータや写真を交えての比較、解説があった。

また、もともと「渡し舟」的な輸送手段であったフェリーを大量かつスピードをもって輸送できる新たな輸送モードとして長距離フェリー網を整備、発展させてきた長距離フェリー業界の功績と現在、社会的要請でもある「環境負荷の低減」、「労働問題」、「物流の効率化」に役に立つ輸送モードとして期待に応えるべく、さらなる進化を遂げている長距離フェリーの現状について説明があった。さらに、スピードアップとカーボンニュートラルを同時に実現するという難しい課題についても積極的に取り込んでいくとの長期的なビジョンが示された。

講演後の質疑応答では、受講者から、物流業界が直面する諸課題を解決していくうえで長距離フェリーの役割に期待する声が多くあり、「環境負荷の低減」、「労働問題」、「物流の効率化」のメリットを「見える化」して利用者にアピールすることが急務であることを丁寧に回答する入谷社長の真摯な姿勢が印象的であった。

以上

担当：栗山



渡邊会長の挨拶



講演する入谷社長



講演会風景



活発な質疑応答